

# 山行報告



## ■日笠山(62m) ゆっくりリズム山行

### 低山のアップダウンを楽しみながら歩く

- 日程：1月16日(月)
- 参加者：La 藤原 SLa 森本 澤田(卓) 砂川(美) 田中(由) 廣岡 藤本 渡邊(俊)  
Lb 澤田(律) SLb 上田 貝塚(陽) 狩集 田中(重) 舛賀 和田

- 行動記録：牛谷登山口 11:00 発～第3展望所(11:15 着)11:22 発～馬坂峠(11:45 着)11:50 発～夫婦岩(12:10 着)13:00 発～日笠山(13:07 着)13:15 発～馬坂峠(14:00 着)～第3展望所(14:20 着)14:25 発～牛谷登山口(14:40 着)

## ◆◆日笠山ゆっくりリズム山行に参加して

## 廣岡

前日(1月15日)は今季最低気温ということで初雪が降り、あちこちでお父さんと雪だるまを作る子供の歓声が聞こえましたが、16日当日の朝は道路が凍てついてどうしたものかと思っていた矢先に、リーダーの藤原さんからのご連絡で1時間遅らせての出発となりました。

牛谷会館に11時集合。牛谷公園でストレッチをした後、登山口へ向かいました。私は曾根に住んで40年余りになり、日笠山は身近に感じておりましたが、登山コースをあまり知らないので参加させていただきました。登山口は旧牛谷小学校へ行く道。歩きやすい石畳で、小さな子供達が歩いて学校に通ったのだと思いながら、ドングリで敷き詰められた道を歩き始めました。

展望台で衣服調節。播磨灘の海や島を眺めながら5分ほど休憩し、馬坂峠に向かいました。馬坂峠まではもう海や島は見る事が出来ません。「あざみ」かな?地元の方が柵で保護されていました。時期がくれば美しい花を見ることが出来るように。破竹も沢山取れるのだろうかと思うような竹林の中をひたすら馬坂峠に。

30分ほどで峠に到着。満開の水仙の花の先の方にまた播磨灘の景色が見えます。この



辺りは秋には「のじぎく」も見ることが出来ます。5分ほど休憩して、一晩で倒れた古木が起き上がったという「起き上がり古木」のある道を登り「夫婦岩」に向かいました。20分～30分山道を歩き到着。そこでは播磨の工業地帯が見渡せます。そこで待望の「ぜんざい」を頂くこととなります。全員一つになってぜんざい作り。

和やかなひとときを過ごし、力をつけて最終目的の日笠山へ。

62mの山頂には、菅原道真公が太宰府に左遷の時に日笠山に登り腰かけたと言われる「腰かけ岩」があり、梅の木もあり、桜の頃には花も見事なようです。

全員で記念撮影。ひと休憩してから、また来た道を牛谷地区へ向かいました。行きはよいよい帰りはなんとかやらず、下ってきた道を逆はずっと穏やかではありますが登りが続き、それなりにまだかな～まだかな～という感じでした。牛谷会館前で解散したのは15時。

ちょっと時間が取れる時、このコースを日常的に楽しみたいと思いました。参加された14名の方々と語りも楽しく過ごせました。リーダーの藤原様、皆様ありがとうございました



## ■六甲全山縦走トレーニング

● 日 程：1月22日(日)

● 参加者：La 森本 SLa 赤木 岡本 乙坂 小山 土井 中井

Lb 砂川(延) SLb 三木(悦) 田中(重) 田中(由) 谷口 藤本  
前川(克) 山下(雅) 山本(清)

- 行動記録：須磨浦公園駅 6:25 発～高倉団地(7:25 着)～妙法寺(9:05 着)9:15 発～高取山(A班) (10:00 着)～神鉄鶴越駅(11:05 着)～菊水山(12:20 着)12:30 発～鍋蓋山(13:20 着)13:30 発～大竜寺(13:50 着)～市ヶ原(14:05 着)14:15 発～摩耶山(16:00 着)～記念碑台(17:45 着)～六甲ケーブル山上駅(18:05 着)
- 行動記録：須磨浦公園駅 6:25 発～高倉台団地(7:30 着)7:35 発～妙法寺(9:20 着)9:25 発(B班) ～高取山休憩所(10:10 着)10:15 発～神鉄鶴越駅(11:00 着)11:05 発～菊水山(12:40 着)12:45 発～鍋蓋山(13:50 着)13:55 発～大竜寺(14:30 着)14:35 発～市ヶ原(14:50 着)14:55 発～摩耶山掬星台(16:45 着)

## ◆◆初めて「六甲全山縦走トレーニング」に参加して

中井

昨年12月から入会させていただいた中井です。

お山とお友だち、と勝手に思い始めてまだ2年です。

私はどんな風に山に親しみたいのか・・・地域の低山、1人歩き、グループ、山飯、雪山、アルプス、テント、山小屋・・・自分探しの50代で山とのお付き合いも楽しみもまだまだ手探りの段階です。

高御位山遊会に入会させていただいたのは、この「六甲全山縦走」というなんとも無謀な大会があることを知ったのも1つのきっかけでした。50年近くも続いているというこの大会だそうですが、お山に興味のない人にとっては、馬に念仏、猫に小判。あることも知りませんでした。知っていても、きっと平地でもしんどい数十キロをまして山道を歩くなんてと思っていたことでしょう。

お山に惹かれて、ずるずる魅せられていくうちに、う～ん、とりあえずどんな体験なんか経験してみようと思うようになりました。大会に出たいわけではなく、「縦走ってどんなの？」が、知りたかったので、心の中ではこのトレーニングで完走できたら大会にはこだわらなくてもいいかな・・・とも思っていました。とっっても単独では道もペースも分かりません。

須磨浦からの1つ1つのお山はなんとなく、登ったことはありましたが、それも今回

歩いていて「ああ、ここ通ったことがある・・・」と、思い出すくらいのぼんやりあるきの私でした。

さて、当日。三木という盆地、田舎から私は真っ暗な時間に出発です。山岳鉄道扱いの神鉄の始発に乗れるのか、50キロの道中の行動食や水分はどのくらい用意したらいいのか・・・。いろんな不安がよぎっていました。経験者の山行を読んで、なにになに・・・靴下の替えがあるといい？温かいポットの飲み物がほしくなる？でも荷物は少ない方がいい？ミニパニックを抱えたまま集合場所の須磨浦公園に着きました。

集合時間セーフ！第1関門クリアです。あとはついて行くだけ。そうです、山行計画の添付も開けないままでスマホを使っていた私は、ただただついて行くことしか目標にしていなかったのです。ついて行けば宝塚にいける。塩のお寺にたどり着ける。それだけ思ってひたすら歩きました。今回の感想の役割も後で声をかけられ、「えっ～知りませんでした。」状態の私。

反省その1。計画はしっかり見て、人任せについていくのはやめましょう。

参加者の皆さんは今までの経験も豊富で、山と山の間をつなぐ街の中も縦走路の表示にたよらず記憶をたどれるくらいの余裕がおありでした。去年のタイムと随時比較され、「ここでこれなら・・・宝塚には〇時ええペースや」と歩くスピードや、休憩のとりかたも疲れすぎず休みすぎず声をかけてくださりました。メンバーの調子を見ながら歩調をとってくださるリーダーさん、ムードメーカーで元気をくださるサブリーダーさん、途中で聞こえてくる高御位山遊会あるあるの話も楽しく聞かせていただきました。大会当日の雰囲気や、赤鬼さん青鬼さんのこと、途中の関門タイムのこと、ご褒美に塩尾寺で待っている温かいもの。縦走トレーニングでは味わえない大会のお楽しみも聞かせていただけ、胸のなかで当日への妄想も膨らませることが出来ました。



西側半縦走もすぎ、あれ距離は20キロか、本当に56キロもあるの？・・・と思いながら、東半縦走に入りました。「摩耶山を越せばあとは流れで歩けるよ～」と聞いていた。

掬星台まで来たときに思いがけない大雪で、摩耶ケーブルで降りることになりました。

ケーブルまでの凍りかけた道路のスリル感はいちばんの危険ポイント。やっと着いたケーブル乗り場からの夜景の美しさが素晴らしくて心にあったかい灯りをともしてくれました。

反省その2、山は生き物、状況天候のアクシデントはつきもの。でもお山はいつでも待っていてくれる懐の大きな宝物。自分の人となりか試されているようで・・・私もお山に向き合えるように成長したいなあと思います。

次回は3月、皆さんの足を引っ張らないようにどこを歩いているかくらいは意識できるようにほんのちょっと成長しながら歩けたら嬉しいです。今回記憶喪失ぎみで、たくさんのお山のアップダウンのことや、感想が詳しくお伝えできなくてすみませんでした。またお山で一緒して頂いた時には、こんなふつつかものですがよろしくお願ひいたします。

## ◆◆六甲全山縦走トレに参加して

田中(由)

何でだろう！！ 今まで縦走トレに参加する機会は何度もあったはずなのに一度も思ったことも無かった。今回初めてチャレンジしたい、歩けている間に一度だけと思い参加させて頂いた。



天気は日の出を楽しめそうな朝焼けだったのに雲が多くなり雨も降ったり止んだり、陽が出たり、霰だったり、雪だつたりの空模様で、風も強くゴーと地響きみたいに木が唸っていました。

朝も早くまだ暗い、レーション中心の食べ物で日帰り山行の楽しいランチタイムもないのになんだか楽しくて、

エスケープルートは何か所もあるし、自分の行ける所までと不安も気負いもなく、特に鍋蓋山ぐらいまでは早めに塩、サプリ等で自分なりにケアしながら歩けた。

縦走トレを経験された方の時々と言われる一言一言が励みとなり前に進む力になった。

摩耶山手前あたりから両側に雪がチラホラ残っていて、その量も歩を進めるごとに多くなり摩耶山ではアイゼン？って思うほどだった。

もう少し先に行きたい気持ちは多少あってもアイゼンを着けてまでの体力は無いし、今日は此处までと思っていたら、B班で初チャレンジの人達も同じ思いみたいで掬星台から全員下山が決定しホッとした。

途中で一人も欠けることなく、一緒に歩けたことは有意義で仲間の大切さを改めて感じた山行でした。

皆さんお疲れさまでした・・・ありがとうございました。



### ■雪の氷ノ山 アルプ

- 山 行 日：1月28日(土)
- 参 加 者：L竹内 SL須増 大谷 福田 三木(悦) 渡辺(和)

- 行 動 記 録：登山口 10:11 発～衣服調整(10:30 着)10:35 発～東尾根避難小屋 (11:04 着)11:15 発～一の谷休憩所(12:39 着) 12:53 発～千本杉 13:24 発～氷ノ山山頂(13:47 着) 14:00 発～千本杉 14:12 発～東尾根避難小屋(15:12 着)15:17 着～登山口(15:44 着)

## ◆◆今シーズン最初で最高の雪山日和

福田

朝4時起床。前夜より約1年ぶりの雪山登山という事もあり緊張と少々不安で寝不足気味。厚かましくもアルプの会に入会を申し込みましたが、皆さんの脚力についていけるだろうか心配しながら宝殿駅に向かいました。

2台のクルマに分かれて氷ノ山国際スキー場へ出発です。8:45 駐車場到着。寒波の後の晴れた週末。大勢のボーダーやスキーヤーで一杯です。

東尾根登山口から登山道に沿って数人のつけたトレースが残っていましたが、それでもフカフカの新雪に全員ワカンを装着。早速、尾根道までの急登が始まりました。登り始めて10分くらいで衣服調整。お天気もよく暑いくらいです。

東尾根避難小屋からは尾根歩きになります。単独行の男性にすれ違いましたが、1・2・4人組の3パーティーが先行しているそうです。



太陽の日差しをうけキラキラと光る雪は美しく、空気は澄み渡り少し先のハチ高原にいるスキーヤーまで見えます。

千本杉手前でリーダーより下りのリフトの時間があるため14時の時点で引き返そうと提案がありました。渡辺さんをトップに行けるところまで頑張ろうとお互いの姿が見える程度の距離は保ちつつガンガン登っていきました。頂上手前は雪も締まっていて登りやすくなっています。13:47頂上には3名立つことができました。山頂の眺望はすばらしく大山まで見えました。さあ、大急ぎで記念撮影して下山です。

傾斜の急なところはワカンをつけたまま下るのはかなり神経をつかいました。何度か転びながらなんとかリフトの最終時間までに戻ることができました。

普通の登山にはない位の疲労感、短い休憩時間、レーション程度の食事とザ・雪山登山体験！！プラスすばらしい天候で大満足です。

リーダー、ドライバーさんありがとうございました。そして、入会を許諾してくださったアルプの皆さま。これからよろしくおねがいします。



## ■ 諭鶴羽山(608m)と灘黒岩水仙郷(淡路島) 諭鶴羽古道を歩く

● 山 行 日 : 1月29日(日)

● 参 加 者 : La 平井 SLa 赤木 兼澤 木下 黒本 高島 西口 舛賀 増田

Lb 須増 SLb 藤本 有本 狩集 関山 田中(重) 中村 野村 吉村

- 行 動 記 録 : 山陽高砂駅 7:30 発 - JR 宝殿駅 (7:45 着) 7:50 発 - 洲本 IC (9:00 着) - 諭鶴羽山登山口 (9:25 着) 9:40 発 ~ 諭鶴羽山山頂 (11:10 着) 11:20 発 ~ ゆずりは山荘 (11:35 着・昼食) 12:10 発 ~ 諭鶴羽神社 12:15 発 ~ 黒岩バス停 (13:20 着) - 灘黒岩水仙郷 (13:25 着) 14:05 発 - 松帆の郷 (16:20 着) 17:15 発 - 山陽高砂駅 (18:30 着)

## ◆◆ 諭鶴羽山に登ってきました

増田

昨年雨で中止になった淡路の諭鶴羽山に今年は好天に恵まれリベンジできました。10日ほど前までは猛烈な寒波のため今年も無理かと思っていたため本当によかったです。

諭鶴羽山は、標高607.9メートルの淡路島の最高峰、一帯は瀬戸内海国立公園に指定されている。

総勢18名で7時50分ごろ宝殿駅前を出発、神戸淡路鳴門自動車道を通って9時25分頃現地に到着。ストレッチの後9時45分ごろ諭鶴羽ダム近くの登山口から登り始める。



諭鶴羽古道裏山道、最初の20分ほどは急な登りで、青息吐息どうなることかと案じたが、その後、尾根伝いはなだらかな整備された山道で、心地よい汗をかく感じで3.4キロを約1時間半で登頂、11時10分ごろ山頂に到着しました。

山頂近くの諭鶴羽神社に参拝の後昼食、いつも思うことだが、山での昼食は格別、景色を眺めながらおにぎりを頬張る、おいしい、余は満足じゃ-----。ここからがいつもと違う、本日のメインイベント舛賀さん登場、山頂での詩吟に大歓声、やっぱり御大はすごい。

下山は、同じ諭鶴羽古道でも今度は反対側の表参道、柴折り地蔵や菊か店跡・坊さま角などの地点を經由して約2キロ、このルートはガラガラ道で急峻なところが多く、足をガクガクしながらの下山であった。これが登りだと非常に難儀しただろうと思った次第である。

帰りは、水仙で有名な灘黒岩水仙郷に立ち寄り、純白のじゅうたんに包まれ、そして仕上げは松帆の郷で山登りの疲れを吹き飛ばしてくれました。

いやあ、楽しい1日でした。企画していただいた平井さんはじめ参加者のみなさん本当にありがとうございました。



## ■六甲山

### 阪急仁川駅「甲山」～「観音山」を経て「ごろごろ岳」

- 山 行 日：2月3日(金)
- 参 加 者：L野村 SL森本 田羅間(易) 田羅間(勤) 西口

- 行 動 記 録：阪急仁川駅 9:00 発～甲山(10:55 着) 11:00 発～鷲林寺(12:05 着・昼食) 12:30 発～観音山(13:05 着) 13:10 発～ガベノ城(14:05 着) 14:15 発～ゴロゴロ岳(14:50 着)～奥池バス停(15:05 着)

## ◆◆久し振りの「六甲山系」山行に参加した

## 西口

通勤・通学の人達の雑踏にまぎれ、集合場所の阪急仁川駅に降り立った。久し振りの「六甲山系」山行に少しワクワク感を覚える。エントリーしていた2名がキャンセルして参加者は5名だった。

まず、「甲山・309m」を目指し足取りも軽く歩き出した。ところが「甲山」は見えているが、予定の到着時間を過ぎていのに辿り着けない。全員が地図を出して位置確認をすると、南に迂回して歩いていたようだった。ようやく「神呪寺じんしゅてら」に到着した。寺の名前を見た時“何と怖い!!”と思い、帰宅後ネット検索すると・・・。納得した。ここから急登で階段の登山道が続いていた。甲山頂上は広場のような広がりでしたが、周囲は木々に囲まれ残念ながら展望はなかった。到着時間が予定より少し遅れ気味だったので、休憩も余り取らずに次の目的地の鷲林寺に向かった。

途中、「北山貯水池」の周囲を歩いていた時、小雪が舞っていて寒く衣服調整をした。この日の予報では、暖かな日になると伝えていたのに外れ予報にがっかりだった。鷲林寺境内で昼食を摂り、今日の山行のハイライト「観音山・526m」に向かった。登山道は思いの外歩き易く30分程で山頂に到着した。少し霞んでいたのが大パノラマは無理だったが、先程登った「甲山」も望む事が出来、そして、多分あれが「あべのハルカス？」！！

観音山山頂から次の目的地「ガベノ城」に歩を進めた。ピークには木に「ガベノ城」の名札が取り付けられていた。空間は狭く「本当に城が建っていた？不思議！」。大パノラマとはいかなかったが、眼下に広がっている展望を覗かれて山行の喜びを感じた。

その後、今年の3月に登った「ゴロゴロ岳・565m」を通過して予定時間に奥池バス停に無事に下山した。バスを待つ間も小雪がちらちら舞っていた。

リーダーも頼もしく、メンバーにも恵まれた楽しい山行でした。

後日、リーダー野村さんから送付されたGPSデータを見ると、やはり仁川駅から南に迂回して歩いた軌跡が確認出来た。良く歩きました。万歩計は優に2万歩を越えていた。



【赤線計画ルート・青線実績ルート】



## ■金剛山(大阪府)霧氷と眺望を楽しむ

- 山行日：2月4日(土)
- 参加者：La 澤田(律) SLa 待場 大谷 小山 河合 狩集 木下 笹木 島谷 田中(由) 田羅間(易)  
Lb 藤本 SLb 藤原 香川 木村 田中(重) 平石 開 舛賀 村上 森下 矢根

- 行動記録：山電高砂駅 6:10 発 - JR宝殿駅 6:30 発 - 金剛登山口(8:35 着) 9:00 発 - 5合目(9:40 着) 9:45 発 - 金剛山頂(10:35 着) 11:15 発 - 転法輪寺 11:20 発 - 葛木神社(11:25 着) 11:30 発 - 展望台(11:55 着) 12:05 発 - 伏見峠(12:10 着) 12:20 発 - ロープウェイバス停(13:00 着) 13:25 発 - かんぼの宿富田林(13:55 着) 15:00 発 - JR宝殿駅 17:15 - 山電高砂駅 17:35 着

## ◆◆アイゼンつけて金剛山

## 島谷

金剛山は大阪府の南東に位置し、大阪府で唯一の村である千早赤阪村にあります。「ちはやあかさかむら」の響きが心地よく、山行案内が出て迷わず参加をきめました。金剛山登山の人気シーズンは冬で、美しい霧氷・樹氷が見られるらしいですが、残念ながら、私達は看板の樹氷をみて「あー、これこれ」でした。

9時には登山開始となりましたが、この時間に下山されてくる方々も多く、きっと樹氷をめざしての早朝登山者なのでしょう。この日の山頂のライブカメラ(ネットにアップされています)によると、朝5時には、万歳している人達がうつっていました。階段だらけの登山道は丸太が朽ちている所もなく、よく整備され高さも私に合っていました。思いのほか早くに山頂に着き、ライブカメラと同じ場所で記念撮影です。山行2日前より気温が上がり、残念ながら「雪に覆われた山頂」は経験できませんでした。それでも道は凍っていてアイゼンをつけて歩くのが嬉しく、また一面が氷でぬれているため「山で立って食べる」という初体験もしました。



頂上付近の転法輪寺は、人があまり歩かないせいか一面真っ白で、その前のお不動様が背に赤い炎をたぎらせて立っておられ、白と赤のコントラストが美しかったです。次のパワースポット、葛木神社(かつらぎ神社)でお詣りをし、足元に注意しながら下山です。途中の坂道では、ソリで雪遊びをさせてもらっている子どもたちや、他市の名札を付けた方々を見かけ、金剛山は「登山」だけでなく冬のお楽しみの山として親しまれているのだと思いました。

ロープウェイ駅近くの360度を見渡せる展望台からは、一昨年(2019年)の山行のススキの岩湧山が望め、山頂は木がなくススキだらけで、当時感じたと同じくやっぱりはげているように見えました。南には遠く大普賢岳が臨め、山頂は白く威厳があり学習会Bの終了山行と同期生を想い、しばし「私ら、頑張った。あそこ登ったぞ」とうれしく眺めました。ちはや園地では、渡り鳥が多く木にとまっていて、おそらくジョウビタキと思われますが黄色と白・黒が美しく皆からカメラをむけられており、とても可愛かったです。

ここからはかなり急な下り坂で、氷とアスファルトが交互にあらわれ非常に歩きにくかったです。有能なアイゼンを考えた先人に感謝します。足元ばかりに気を取られていましたが、ふと前を見ると、軽四輪車が横倒しになり川瀬に落ちかけて放置されていました。

運転手はどのように脱出されたのか？自力でドアを開けられたのか？そんなことを考えながら、自分はスリップしないように、前の人を巻き添えにしないように、さらに慎重に歩きました。

予定より早く下山し、入浴後はビール、ソフトクリーム、ケーキセットとそれぞれに満足度を増し帰路につきました。インフルエンザ等が流行っている頃にもかかわらず予定通りの22名参加で、怪我もなく、お天気もよく、笑顔よく、うれしい金剛山でした。





## ■雄岡山(241m)・雌岡山(249m)

### ゆっくりズム山行

- 山 行 日 : 2月10日(金)
- 参 加 者 : La 瀧原 SLa 砂川(延) 川上 澤田(卓) 田中(重) 田羅間(勤)  
開 山下(純) 山本(清)  
Lb 西口 SLb 山本(正一) 内海 狩集 澤田(律) 田中(由)  
田羅間(易) 西脇 廣岡 矢根
- 行 動 記 録 : 酪農生活センター9:15 発～登山口 9:25 発～雌岡山山頂(9:55 着)10:07 発～裸石神社(10:10 着)10:15 発～梅林(10:25 着)10:35 発～雄岡山登山口(11:00 着)～雄岡山山頂(11:10 着)11:15 発～雄岡山登山口(11:25 着)～酪農生活センター(12:25 着)

### ◆◆ゆっくりズム山行 雄岡山(241m)・雌岡山(249m)に参加して 廣岡

兵庫楽農生活センター「かんでかんで」でヘルシーバイキング昼食に魅せられて参加させて頂きました。

内海号に西口さん、矢根さんとご一緒に乗せて頂き、出発時点では雪もちらほら。大雪と言うニュースが流れるなか、「雪かなあ」「雨よりましか」「景色もダメかなー」と話しながら集合場所に到着。ストレッチを済ませて9時15分に出発しました。

登山口は学校校庭のすぐ後ろで、この登山道を生徒達はイチニイ、イチニイと走るのがナ？と想像しながら白玉大明神への鳥居をくぐり抜けて、階段を登り詰めると雌岡山(めっこさん)に着きました。

立派な神出神社があって、「お旅処」・山頂は古墳でした。諦めていた景色もうっすらと木々の間から明石大橋も見えました。お天気は、私達に味方してくれそうです。雄岡山(おっこさん)も見えました。ワー、少し遠いところにあるなーと感じましたが、すっくと美しい形をした山だと思いました。裸石神社のご神体？をみてチョット気恥ずかしいような、又、素朴な信仰心の表れかと思いながら神社を一回りして雄岡山へ向かいました。

途中、梅林で可愛い梅の花に心休めました。二分咲き、三分咲きも、また、健気でいいものです。信号を渡ったり自動車道を歩いたり・・・雄岡山登山口からの道は、枯葉がやさしいクッションになって歩く足を労わってくれます。

両側に大きな木々の林を見ながら、いよいよ雄岡山山頂です。バンザーイ!!明石大橋は前よりも近くに見え、西神の工業地帯やベッドタウン、その左側には高取山や菊水山も望む事が出来ました。

さあ、雄岡山山頂から「かんでかんで」まで。長かった～。でも、予定の時間内に無事到着。みんな、お腹一杯にヘルシーバイキング昼食を頂き、満足して帰路につきました。



私は入会して間がないのですが、一緒に行動しお喋りして楽しい一時を持つことが出来、楽しい山行ができました。いつも思うのですが、その土地の歴史があり古代、人々の営みが残されていて、その上で私達も過ごさせてもらっている。

今回リーダーの瀧原様、お世話くださった皆様、ありがとうございました。